

3/6~11に行われたハワイ大学でのワークショップの御報告をさせていただきます。

まず初日は、歓迎パーティーを行っていただき、総勢 23 名の参加者が一同に会しました。

2 日目は、教育部門の責任者であられる Dr.Sakai のユニークなお話からスタートしました。この日は肺の身体診察、病歴聴取の授業を受けました。ペアになって行った肺の身体診察の実習では、オスキーで身体診察の練習は一通りしていたため流れの理解は問題無く出来たのですが、英語での声掛けなどが難しく、苦戦しました。

3 日目は、筋注、皮内注射、腹部へ自己で行う皮下注射の三種類を、一人一回ずつお互いに練習しました。神経損傷を起こすのではないかと危惧しながら恐る恐る行ったのですが、特に問題無く終える事が出来ました。生身の人間に注射の練習を行える機会は滅多に無いので、大変貴重な経験になりました。何より、注射をすることへの度胸と自信がつけました。心臓の身体診察の練習では、心音の聞き方や Z テクニックなどはもちろん、自分で満足に体を動かせない患者を補助しながらベッドに寝かせる方法なども習い、医師としての心遣いを身につけるのにも役立ったと思います。

4 日目は、SP さんに対して禁煙のための模擬診察をしました。5A (Ask, Advise, Assist, Assess, Arrange Follow-Up) に則して禁煙を勧め、アドバイス等をする練習をしました。禁煙に関しての診察は日本語ですら行った事がなく難しかったのですが、大変良い経験になりました。禁煙は健康維持のため必要不可欠であると思うので、日本でも有用な診察の方法を学べたと思います。この日はハワイ大学の学生と話しながらランチを食べ、ハワイの医療や学生の様子について知ることが出来ました。

5 日目は、シミュレーターを用いて気管支鏡や腹腔鏡の練習を行いました。シミュレーターとはいえ、実際に使うのに近い器具を用いて行い、バーチャルの気道や腹腔の内部の映像を鮮明にモニターで見ながら練習が出来るので、手技の向上に大変有用だと思いました。気管支鏡が特に難しく、なかなか上手に出来なかったのですが、また練習の機会があればと思います。PBL は英語で行いましたが、チューターの先生に言いたいことを上手く伝えられず、もどかしい思いをしました。

6 日目は、呼吸困難を訴える SP さんに対しての模擬診察を行いました。これはこのワークショップで学んだことの集大成とも言えるもので、学んだことを全て活かせるように努力しました。身体診察、問診共に英語で行うのは易しくありませんでしたが、学んだことを発揮出来たと思います。この日は練習したフラダンスを参加者皆で披露し、素敵なハワイアンディナーをご馳走になったりと、ハワイの文化にも触れることが出来ました。

今回のワークショップでは、他大学から来た参加者と交流できたのもよかったです。またハワイ大学の学生のレベルの高さを感じ、四年制の大学生活の忙しさを垣間見て自分ももっと努力せねばと刺激を受けました。身体診察や問診の練習が多く出来たので、来年から

の病院実習にも活かしていけると思います。ただ、ネックだったのは英語力不足でした。先生の言葉を聞き取れなかったせいで出来なかった事などもあったので、医学は勿論、英語の聞き取りなど英語の学習にも励みたいです。

最後となりますが、今回のワークショップでは多くの方々にお世話になりました。特に、多大なるご支援を頂いた佐賀県、医学部同窓会、佐賀大学の皆様、佐賀大学、ハワイ大学の先生方には誠に感謝しております。ありがとうございました。この感謝の気持ちと学んだことを、国際交流プロジェクト等への参加という形で佐賀大学に還元させて頂きたいと思っています。

私は今回ハワイ大学の臨床推論ワークショップに参加して、たくさんのことを学ぶことができ、また多くの刺激を受けました。

私が特に印象に残った実習は注射の実習と模擬患者さんを相手に行う医療面接です。私はこれまで注射を実際に人に対してしたことはなく、共用試験前の実習で採血の練習をシュミレーターでした程度だったのでとても緊張しました。今回は筋肉注射、皮下注射、皮内注射を体験しました。筋肉注射は以前受けた時とても痛かったので、するのもしられるのもし怖かったです。皮内注射は針を水平に進めることがとても重要で、少しでも角度をつけると皮内に液体を注入してしまうため難しかったです。無事に全ての注射を終えることができよかったです。この実習で患者と医師の両方を体験したことで、将来患者さんに注射等の医療行為をする際、患者さんの立場に立って、患者さんの恐怖心を少しでも軽減できるよう努力する大切さを学ぶことができました。また、医師としての責任の重みも感じました。

医療面接・身体診察の実習では、実際に模擬患者さんを相手に診察を行いました。診察は全て英語で行われます。そのため前日に友人と練習しましたが、本番はやはり緊張しました。日本とアメリカの病院は患者さんが待っているところに医師が伺うなど少し違う点があり、部屋に入る際のノックが患者さんとの初めてのコミュニケーションとなります。そのためノックが患者さんとの良好な関係を築く上でとても重要だということなどを学び、とても興味深かったです。先生方は患者さんが中心の医療の大切さを強くおっしゃっていました。また、先生の言葉で印象的だったのが「I'll do it.」という言葉です。ワークショップの実習中、誰が何をするかを決めるのに時間がかかってしまい、処置が遅れてしまったことがありました。臨床の現場ではこのような心構えでは患者さんを救うことはできません。日頃から医学的知識を学ぶ努力をすることはもちろんですが、自分から動く積極性を身につけることが患者さんを救うことに繋がるのだと思います。4月からの実習でもこのことを忘れないようにしたいと思います。

このワークショップの授業は医学的な内容がメインでしたが、フラダンスを習ったり、レイという首飾りを作ったりとハワイの文化を体験する授業もありました。放課後は他大学の学生と買い物をしたり、夕食を食べに行ったりととても楽しいひとときを過ごすことができました。英語がとても上手な方、USMLEを受けようと勉強している方など、意識の高い学生がたくさんいて、私自身たいへん刺激を受けました。最終日には先生方も出席されるアロハディナーという夕食会がありました。このワークショップで知り合った友人や先生方と話をしたり、フラダンスを踊ったりしてとても楽しかったです。修了証も頂き、皆と会えるのがこれで最後だと思うととても寂しかったです。

毎日がとても充実していて、あっという間の1週間でした。最後になりますが、このワー

クショップに参加するにあたりご支援してくださった佐賀県、佐賀大学、医学部同窓会の皆様、お世話になりました佐賀大学、ハワイ大学の先生方に心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。今回参加したことで海外の学生と関わる楽しさを改めて感じ、今後の海外交流事業にも積極的に参加していきたいと思いました。今回のワークショップで学び得たことを今後の病棟での実習や将来に生かすとともに、大学に還元していきたいと思います。

3/6～3/11 に、ハワイ大学で行われた **Clinical Reasoning Workshop** に参加しました。

授業 1 日目は **Chest pain** の **History taking** などの授業を受けました。アメリカの外來は、患者が部屋の中で座って待っており、医師が部屋に入っていくというスタイルで、日本とは異なり新鮮でした。そのため、ドアをノックすることから患者との関係が始まり、ノックの仕方ひとつにも、患者さんが心地よく感じられるように心を砕いているのが印象的でした。日本における医師-患者関係でも、仕草や言葉遣いなどを通して、患者さんを尊重する医師になりたいと思いました。

2 日目は、**Injection Clinic** と、チームでの **Manikin Simulation** が心に残っています。**Injection Clinic** では、筋肉注射、皮内注射、皮下注射を初めて人に対して行いました。腹部への皮下注射は、インスリン治療中の患者さんなどは自分たちでやっていることですが、先生から「自分でやってみたことがなかったら、患者さんに処方するときどのくらい痛いかなどが分からないでしょう。Let's try!」と言われました。刺してしまえばそれほど痛くなかったですが、刺すまではどのくらい痛いのか想像がつかず勇気が必要でした。治療法の選択や説明の時には、医学的知識だけでなく、患者さんの **QOL** などにも配慮して、患者さん自身で選べるように提示していきたいと思いました。

Manikin simulation では、ひどい咳で **ER** に運ばれた乳児について、6 人のグループで実習をしました。家族に病歴を聞く人、血圧や心電図、**SpO2** メーターの装着をする人などに分かれ、この患者に何が起きているのかを話し合い、治療法を決定する演習をしました。実際の医療現場でも行われるチーム医療を体験することができ、とても良い経験でした。また、話し合うためには幅広い知識と経験が必要であることを痛感しました。

3 日目～5 日目には、**Simulated patient encounter**、**Virtual Procedures** として腹腔鏡、気管支鏡のシミュレーション、**PBL** などを行いました。**PBL** では、ついつい血液検査やレントゲンなどの検査を処方したくなりますが、その前に身体診察で得られる情報が診断にとっても有用であることを教わり、今後の実習や診察に生かしていきたいと思いました。

今回の実習では、本当に多くのことを学びました。内視鏡シミュレーター、注射実習、マネキンなど環境にもすごく恵まれましたし、**JABSOM** の先生方も臨床経験も交えながら熱心に教えてくださいました。先生のおひとりが「ひとつの科で一人前に問診をとれるようになるまで 10 年、もしくは 10000 時間かかります。」とおっしゃっていました。医者は一生涯勉強する仕事とよく聞きますが、それを本当に痛感しました。帰国後 4 月から始まる病棟実習で、実際に現場を目にしながらしっかり勉強していきたいと思います。

最後になりましたが、今回のワークショップ参加においてご支援くださいました、佐賀県、医学部同窓会、佐賀大学医学部のみなさま、お世話になりました佐賀大学・ハワイ大学の先生方、本当にありがとうございました。今後も佐賀大学の国際交流プログラムなどに積極的に関わり、今回の経験を生かしていきたいと思います。

私は今回、3月6日から11日にかけてハワイ大学医学部にて行われたワークショップに参加させていただきました。

ワークショップでは、すべての授業が英語で実施され、心臓と肺を中心とした医療面接や身体診察の練習、注射の実習、カンファレンスにおけるプレゼンテーションの手順、などを学びました。

まず、授業に参加する中でとても印象に残ったのは、実践型の授業が主であるということです。おおまかな説明が終わると、それでは実際に練習してみましようというように、その場で実践に移ることが多かったです。最初は、習ったばかりの状態では本当にはできるかと不安でしたが、ペアの人と教えあったり、先生に質問したりしてなんとか形にすることができました。基本形をしっかり勉強して身につけることはもちろん大切ですが、試行錯誤しながら自分のパターンを作っていくのもまた大事だと思いました。

今回のワークショップで注射の実習をさせていただいたのは、本当に貴重な体験となりました。筋肉注射・皮内注射をお互いに、皮下注射を自分で打つ、というものでしたが、日本ではなかなかできない経験だと思います。他人の体に針を刺すということの恐怖と責任を学びました。自己注射については、自分に針を刺すという初めての経験をし、注射が苦手な私にとって非常に大きな山を越えた気分でした。これは先生が、ここらへんのどこでも大丈夫よ、素早く刺すのがコツよ、と笑いながら気さくに教えてくださったから達成できたことだと思います。実際に終わってみればほとんど痛みを感じることはなく、思っていたよりも簡単であると感じました。ただ、これを自分が患者さんに伝えるときのことを考えてみると、私が先生に言われてもなかなか恐怖が拭いきれなかったように、患者さんの恐怖を和らげるのは難しいだろうと思います。今回初めて自分で注射したときの、実は怖がる必要はなかったのだ、というこの気持ちを忘れずにいたいです。

私がワークショップの中で、最もうまくできるか不安で、けれども楽しみにしていたのが **patient encounter** です。この授業では、最初の診察室に入るところから、医療面接・身体診察を行い退室するまでの一連の流れを全て英語で行います。患者さん役はハワイ大学の先生や生徒ではなく、一般の方でした。日本語でも医療面接や身体診察の流れがあるように、英語にも決まり文句や一連の流れがあります。その方法をハワイ大学の先生から直に教えていただいたこと、現地の SP さんの前で実践させていただける場があったことに非常に感謝しています。先生が見せてくださったデモンストレーションにおいて、患者さんと気軽に会話する様子やちょっとしたジョークを交えている様子など、教科書に書いてあることだけでは決して学べないたくさんのお話を教えていただきました。英語力があればもっともっと患者さんとの距離が縮まるのと感じる場面もあり、英語力もまだまだスキルアップする必要があると思いました。また、患者さんよりも視線が高くないように気をつけることや、聴診器を当てる前に手で温めることなど、日本で学んだことと同じで

患者さんが不快な思いをしないような心配りがあることを知ったときは、やはり医療において大切なことは世界共通であるのだと思い、うれしく感じました。

ワークショップの一週間はあっという間で、とても刺激的な毎日を送らせていただきました。これからも海外に目を向け続け、日本国内・国外にかかわらず世界で活躍できるような人材を目指して、努力したいと思います。

今回ご支援くださった佐賀県、佐賀大学、医学部同窓会のみなさま、お世話してくださった佐賀大学の先生方、ハワイ大学の先生方、本当にありがとうございました。

これからも佐賀大学における国際交流が活発でありますよう、またさらなる発展がありますよう、佐賀大学で行われるさまざまな国際プログラムに積極的に参加したいと思います。